

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第四中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	学校教育目標の全校掲示、学校だよりや教育計画への位置づけ、学級経営案や学習指導案への導入などを通して前教職員で周知、共有を図っている。今後具体的な取り組みをさらに明確化し取り組んでいく必要がある。	B	きれいに整えられている学校を見ると安心できるが、教職員のさらなる一致団結と教育目標達成のための姿勢が求められる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	B	震災対応緊急マニュアルの改善し、生徒や保護者に周知徹底を図っている。今後地域との連携や共同体制での実情に応じた避難訓練の実施や日常生活の中での危機意識の醸成に取り組む必要がある。	B	学校の危機管理体制や取り組み状況が伝わっていない。今後は地域への周知徹底の工夫や教職員の意識の改善、小中連携を通じた危機管理体制を築く必要がある。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	広沢タイムの活用や各教科における確認テスト等の実施により基礎学力の定着に向かいつつある。学習意欲や学習習慣が個人差が大きいため、家庭学習や授業の改善によりさらに基礎基本の定着に努める必要がある。	B	真面目な授業態度や取り組みがみられた。まだやらされている感の強いところや学習に集中していない生徒も若干みられるため指導の工夫が必要である。子供の作品の展示などは意欲を高める上でも効果があると考えられる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	全教科による授業改善の研修、公開授業を通して授業の充実にも努めている。特に、新指導要領の求める学力(基礎基本・思考力・判断力・表現力)の育成に向けて全教職員で取り組んでいる。生徒に学力向上の実感を与えたい。	B	基礎基本が未定着の生徒への指導の工夫とともにさらにレベルアップを希望する生徒への対応等、個に応じた指導の工夫改善が求められる。
	5	学校は、学習ルールを共通理解するなど、学習規律の確立が図られている。	B	四中スタンダード(学習規律)を明示してその定着に努めている。また指導に差異がみられるため求める学習者の姿をさらに共通理解しながら規律ある授業と学習者の育成に努める必要がある。また、家庭との連携もさらに模索し成果を上げる必要がある。	B	小学校からの継続的な指導や小学校との共通の指導等小中の理解が必要である。また、家庭学習の仕方などの指導を徹底する必要がある。
規律ある態度の育成	6	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	あいさつは習慣化されつつあるが、整理整頓、忘れ物、時間を守ることに課題がみられる。また、生活習慣の定着が図れない生徒も見られるために学級経営、教科指導の改善や家庭との連携からさらに規律ある態度の育成に努めたい。	B	この時期に急には治せないで今後のことを考え、幼→小→中学校との連携とともに、保護者への啓蒙も課題である。
	7	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	アンケートからも健全な自尊感情や規範意識に課題がみられた。生徒一人一人に社会の一員としてのマナーや規律ある態度の育成に教職員が一丸となって取り組む必要がある。また、家庭との指導の一貫性なども今後図りたい課題である。	B	学校農園の明るく元気な姿、登下校の姿や指導、書き初めにおける正座でのあいさつ等先生方の指導や努力の跡が見える。保健だよりの工夫や掲示、教室および老化等の掲示物からも頑張っている姿勢がみられる。
健康・体力向上	8	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	多くの生徒が運動部活動に参加し、体育の授業でも元気な声があふれ、昼休みに活発にボール遊びに興じている姿がみられる。しかし、運動の二極化やスポーツテストによる大きな差異も確認できるためにさらに活動の場の設定等工夫が必要である。	A	体育祭の取り組みや昼休みの活動、また、たれ幕による大祭参加生徒の紹介など四中生の頑張りや活躍が伝わってくるとうれしく思う。
	9	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	体育授業の充実をもとより運動部活動の奨励、体育祭や球技大会およびスポーツ大会の開催により運動の機会の充実を図った。また、学校保健や食育との関連を図りながら健康体力の保持増進に努めている。今後家庭の協力も得ながら推進したい。	B	部活や体育祭などの行事はある程度理解できるが、四中の体力の現状や体力向上のための具体的な取り組みが伝わっていないために、広報活動にも力を入れる必要がある。
連携	10	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	B	父母と先生の会の行事への教職員の参加、あいさつ運動、ふれあい祭り、鳴子踊りへの参加を通して連携が図られた。今後地域の教育力や連帯的な力を学校教育や子どもの安全・安心の確保に向け取り組んでいきたい。	B	ふれあい祭り、担当地区の就任児童委員との毎月の定例会は意義があるが家庭環境の変化より更に連携を深める必要がある。また、地域社会(町内会)などとの連携には工夫が必要である。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満